

# エリア

AREA

2005. 6. 30

No. 38

## 平成17年度国土交通省地域振興アドバイザー派遣・始まる

平成17年度のアドバイザー派遣が始まりました。今年度は22地域への派遣です（うち4地域は試験派遣）。5月には東京で「国土交通省アドバイザー派遣制度」の平成17年度オリエンテーションが行われ、アドバイザーと受け入れ地域の担当者との顔合わせも終わり、6月下旬から第1回の派遣がスタートしました。

このニューズレター「エリア」は、派遣地域とアドバイザーを繋ぐものとして、毎年3回発行しております。第1回目は、派遣受け入れ地域のご担当の方々に、「①派遣地域の様子、②派遣テーマ、③オリエンテーション時のアドバイザーとの打ち合わせ内容、④アドバイザーに期待すること」について、ご執筆いただきました。

### 北海道／南富良野町

#### 1. 派遣アドバイザー

有山 忠男（ライブ環境計画代表）  
金井 萬造（地域計画建築研究所代表）  
久木田 禎一（エヌ・ビー・エヌ代表）

#### 2. 地域の様子

南富良野町は北海道のほぼ中央に位置し、総面積約665 km<sup>2</sup>の広大な町域を有し人口約3,000人の小さな町です。

町の周囲を北東に「北海道の屋根」として知られ国立公園でも知られている大雪山連峰・西に夕張山系・南は日高山脈と今なお原始の姿を残している山々に囲まれ、町域の90%がこれら森林に占められています。

町の中央を東西に貫流する「空知川」に沿って6つの集落と町の中心に昭和42年完成した金山ダムにより作られた人工湖「かなやま湖」などから町が形成されております。

町は、古くからこれらの環境を生かした農業や林業、更には交通の要所として発展してきましたが近年は「人工湖全国2位」の入込数を持つかなやま湖を中心にアウトドア観光のメッカとして観光事業が定着してきております。

しかしながら、長引く景気低迷や旅行形態の変化により観光入り込みも減少の一途をたどり新たな観光事業の展開が望まれております。

#### 3. 派遣テーマ

「第3セクターによる宿泊観光の経営戦略について」

平成3年に第3セクター(株)南富良野町振興公社を立ち上げ、①ホテル、旅館業、②農産物処理加工業、③施設管理業を行ってきていますが、特に宿泊施設の営業収支が経営全体の赤字の要因となっており、その経営のあり方と改善が求められています。

#### 4. アドバイザーとの打ち合わせ

持参したパンフレットや資料により観光の全般、16年

度の振興公社の決算状況を説明し内容の把握をしていただきました。また、5期分の決算書、宿泊者数のデータ、職員の構成及び組織図等の資料の事前送付の指示を受けました。第1回派遣時に、現地視察と受け入れ側との意見交換の中で問題点を抽出し、次回予定のワークショップにつなげて行くこととなりました。

#### 5. アドバイザーに期待すること

町の観光の要となっている町振興公社ホテル事業の経営を改善し観光事業の活性化を専門的な立場からアドバイスをいただきたいと思います。

（企画商工課 安西 里志）

### 岩手県／紫波町

#### 1. 派遣アドバイザー

木下 勇（千葉大学園芸学部教授）  
結城登美雄（民俗研究家）

#### 2. 地域の様子

岩手県のほぼ中央、盛岡市と花巻市の間に位置し、東西に小高い山々が連なり、中央を北上川が流れる紫波町は、肥沃な大地に恵まれ、古くから農業が盛んでした。北上川流域では「もち米生産量日本一」、山あいでは県内有数の「フルーツの里」がキャッチフレーズです。その自然環境を保全し、美しい自然と自然の恵みを未来へ残すため、循環型社会の構築を目指しています。

また、全国に赴く酒造工250名を数える「南部杜氏発祥の地」、銭形平次捕物控の作者である野村胡堂生誕の地でもあります。

当町は、中央を縦断する東北本線と国道4号沿いに宅地造成が進み、10年間の人口増加率は10%を超え、現在約34,500人となっています。

#### 3. 派遣テーマ

## 「TMO まちづくり会社設立に伴う組織づくりについて」

平成15年度に「過去と未来が循環するまちづくり」を理念とした中心市街地活性化基本計画を策定し、今年7月TMOまちづくり会社（株）よんりん舎が設立されます。町観光協会の事務局も移管することから、豊富な地域資源を活用した振興策と実際に活動する組織体制の確立をテーマとしています。

### 4. アドバイザーとの打合わせ

町内の観光交流団体等の代表が集まる場を新たにつくり、地域づくりについて懇談をし、地域に誇りをもって語るといった視点から新たな観光交流ビジョンを創出する。それが観光協会及び（株）よんりん舎の活動方針となるべく確認をしました。

### 5. アドバイザーに期待すること

行政主導型であった観光協会を、この機会に観光交流団体と町民参加による運営を確立したいと考えています。その観光協会の事務局を担う（株）よんりん舎が、中心市街地と農村部のつなぎ役を担うよう、体制づくりや方策についてアドバイスをいただきたいと思っています。

（政策経営課 鎌田 千市）

## 秋田県／大潟村

### 1. 派遣アドバイザー

石井 政雄（開発計画研究所代表）  
川端 直志（ケイ・プランナーズ代表）  
光多 長温（鳥取大学地域学部教授）

### 2. 地域の様子

大潟村は、秋田県の西側ほぼ中央、男鹿半島の東側に位置しており、ほぼ中央部を北緯40° 東経140° の経緯度が交わっています。国営八郎潟干拓事業により1964年（昭和39年）に誕生したことから行政面積170.05km<sup>2</sup>全域が海拔以下となっており、周囲を取り巻く約54kmの干拓堤防によって八朗湖と隔てられています。また、村の人口は全国1都1道36県からの入植農家等の約3,400人となっています。

村の基幹産業は農業で、1戸平均15haの水稻を中心とした大規模経営が行われ、大豆・麦類・カボチャ・メロン等も生産されています。また、平坦かつ広大な村の特性を活かし、ワールド・ソーラーカー・ラリーや菜の花まつり等のイベント開催や干拓博物館等の観光施設の整備により交流人口を確保するとともに、サンルール大潟を拠点とした滞在型観光にも力を入れています。

平成15年には住民の強い意思により自立の村づくりをスタートさせており、「生活者の視点に立った、住民参加・参画の村づくり」を基本にした小さくてもキラリと輝く、個性豊かで魅力溢れる村づくりをめざしているところです。

### 3. 派遣テーマ

#### 「自ら考え行動する社員の養成」

#### 「ホテルとしての事業展開」

（株）ルール大潟は株の60%を村が保有する第3セクターで、「サンルール大潟」の管理運営を県・村から受託しています。指定管理者制度に対応した経営改善や村政策と呼応した事業展開についてアドバイスをいただきたいと思っています。

### 4. アドバイザーとの打合わせ

テーマ内容が、村の地域づくり政策と密接な関連があることから、行政（村長）の考え方を確認するとともに、村内活動団体との意見交換について積極的に行いたいとの要望が出されています。

### 5. アドバイザーに期待すること

課題について豊富な経験からの確かなアドバイスをいただくとともに、今後の魅力的な村づくりへのヒントを見出せることを期待しています。

（総務企画課 田中 司）

## 山形県／飯豊町

### 1. 派遣アドバイザー

安藤 周治（中国・地域づくり交流会副会長）  
黍嶋 久好（愛知大学三遠南信地域連携センター）  
佐川 旭（佐川旭建築研究所代表）

### 2. 地域の様子

飯豊町は山形県の南西部に位置し、雄大な飯豊連峰を背景に広がる町土の約83%を山林が占める自然あふれる美しい町です。町内には「第1回美しい日本のむら景観コンテスト」で生産部門の最高賞である農林水産大臣賞に輝いた田園散居集落景観が広がり、屋敷林と散居集落が水田と見事に調和し美しい農村空間を構成しています。

本町では住民自らが、自らの住む町を創っていく「手づくりのまち いいで」を合言葉に、第1次総合計画の策定以来、30数年にわたって住民主体によるまちづくりを展開してきました。全地区において土地利用計画を策定し、第3次総合計画には地区別計画として位置づけています。しかし、地区や集落の自発的な活動が活発に行われているところはあるものの、地区によっては取り組みや認識の低さなどから進捗状況に格差を生じており、地区や集落の課題を掘り起しその解決のためにどう行動すべきなのかといったことや、将来像を共有するような活動にはまだ至っていません。

### 3. 派遣テーマ

#### 「少子高齢化・過疎化が進展する地区や集落が

#### 自立していくための方策について」

第3次総合計画の、地区の将来像とそれを実現するための地区別計画の推進と住民のまちづくりへの主体的な参

画の推進を図っていくことが課題となっています。また、町内でも地区によってその取り組みの格差が大きく、全町的に発展を遂げていくため、アドバイザーの支援を得ながら、特にこれまでの活動でなかなか成果のあがない地区を強く誘導していければと考えています。

#### 4. アドバイザーとの打合わせ

アドバイザーを受け入れる意義、地域における課題を共通の認識とし、住民とともに職員の意識改革によりパートナーシップを築いていくことが大切であり、また、アドバイスしてほしい事項をもう少し具体的にし、アドバイザーの受け入れ組織として住民の運営委員会等の設置や多くの住民を巻き込むネットワーク化が必要であるという行政への課題もだされました。

#### 5. アドバイザーに期待すること

町内に外からの新たな風を吹き込んでいただき、住民の主体的な参画のさらなる拡充と、行政と住民による協働のまちづくりの実践、地区のまちづくり活動の活性化のきっかけづくりになればと考えています。この機会に、この地域の暮らしの価値を再評価することにより、地域の人々が日常生活や地域そのものにこだわりを持ち、自信と誇りにつながるまちづくりを目指したいと思います。

(企画課 志田 政浩)

### 福島県／原町市

#### 1. 派遣アドバイザー

小河原孝生（生態計画研究所代表）  
橋立 達夫（作新学院大学総合政策学部教授）  
福田 興次（福田農場ワイナリー代表）

#### 2. 地域の様子

原町市は、福島県の北東部、太平洋に面した阿武隈高地の裾野に広がる海洋性の穏やかな気候に恵まれた人口48,000人のまちです。また、本市には一千余年の歴史と伝統を誇る相馬野馬追に代表されるように、永い歴史と伝統、そして人情豊かな市民性が長い間培われ、豊かな自然と地域特性を生かしながら着実に成長を遂げてきました。現在、「豊かなみどり ひと生きいき きらめくふるさと」が実感できる「環境と福祉のモデル都市、原町市」の創造を目指しています。

相馬野馬追は、一千有余年の昔、相馬氏の始祖である平将門が新しい軍事力として馬の活用を考え、下総国の牧に野馬を放牧し、それを敵兵に見立てて野馬を追ひ、捕らえる軍事訓練として始まったといわれています。その後、相馬氏が原町市のある相馬地方に移り住んでからも、代々の領主が明治維新までこの行事を連綿と続けてきました。明治維新後は、妙見神社の神事として再出発しています。現在、相馬野馬追は、国の重要無形民族文化財として、7月23・24・25日の3日間、500余騎の甲冑騎馬武者が出演し、勇壮華麗にして豪華絢爛に繰り広

げられる戦国絵巻となっています。また、相馬野馬追は、世界一の馬の祭典ともいわれています。

#### 3. 派遣テーマ

##### 「交流施設「ハートランドはらまち」の再整備について」

ハートランドはらまちを建設してから15年が経過し、利用者数が年々減少しています。今回、市内の海浜公園、森林公園等との連携も視野にいた観光交流事業を展開するため、必要な再整備の内容に助言いただくことにしております。

#### 4. アドバイザーとの打合わせ

歴史観をもって地域をみれば何か光るものが見つかる、施設の内容や運営を棚卸しすれば商品が見つかる、観光交流施設とするなら市内関係施設との役割分担や連携を検討すべき、市町村合併後のエリアを念頭に施設の再整備を検討すべきなどのアドバイスをいただきました。

#### 5. アドバイザーに期待すること

実際に当市を訪れていただき、風土や人情を肌で感じていただきながら、観光交流事業の展開方法について助言いただきたいと思います。

(農林課 田中 稔)

### 福島県／西郷村

#### 1. 派遣アドバイザー

稲生 信男（東洋大学国際地域学部助教授）  
羽田 耕治（横浜商科大学教授）  
長沼 修二（総合ユニコム㈱常務取締役）

#### 2. 地域の様子

西郷村は福島県の南端、西白河郡の北西に位置し東西22km、南北14km、総面積192.32km<sup>2</sup>を有し人口約19,500人の村で、東北新幹線新白河駅を中心とした都市の顔、北部を中心に田園風景が広がる農村の顔、それに南会津郡下郷町、栃木県那須町に接する地域で甲子温泉、新甲子温泉を中心とした日光国立公園の顔を持っています。日光国立公園の顔は観光の顔そのものであり、日光国立公園の本物の自然を生かした観光の推進を図ろうとしています。

#### 3. 派遣テーマ

##### 「第3セクター西郷観光㈱の

##### 経営戦略とその具体的な施策について」

平成元年に新甲子温泉地区に第3セクター西郷観光⑭運営による家族旅行村キョロロン村をオープンいたしました。バブル崩壊以降、年々来場者も減少の一途をたどり、それにつれて累積債務も15億を超えることとなってしまいました。この債務については取引金融機関はじめ㈱整理回収機構の計らいによりまして、3千万円と大幅な債務の圧縮がなされました。これを機会に地域の活性化のため



に再出発を図ろうとしております。再出発に当たり経営の健全化を図るための施策を懸命に模索中であり、これら具体的な施策の実施が急務の課題となっております。

#### 4. アドバイザーとの打合わせ

西郷観光株の経営内容、決算資料等により経営内容の説明をしておおまかな内容を把握していただきました。第1回派遣時に、現地視察を行い受入側と意見交換をし今後の方向づけをしてもらいたいと思います。

#### 5. アドバイザーに期待すること

- 1) 施設の立地、環境及び現状の施設内容を周知していただき、3年後に開通する国道289号線（会津と白河を結ぶ）に備えてどのようなアクションを起こすべきか、また、旧態依然としている施設内容をリニューアルする場合の今後の方向づけ等のアドバイスをお願いします。
- 2) 広告宣伝は、各種媒体やイベント等ありますが、費用対効果があまり明確でないため勘定科目的には削減せざるをえないものとなっております。他の施設などで低コストで高い効果を上げている実例、アイデアなどアドバイスをお願いします。

（商工観光課 渡辺 文雄）

### 千葉県／大多喜町

#### 1. 派遣アドバイザー

阿部 等（NPO交通ビジネス研究会主宰）  
遠藤 聡（国土開発センター富山支店理事）

#### 2. 地域の様子

大多喜町は、千葉県房総半島のほぼ中央に位置し東西約12km、南北約19km、総面積約129km<sup>2</sup>と千葉県の町村で最も広大な面積を有し、森林が総面積の約70%を占める自然環境に恵まれた町です。江戸時代初期には徳川四天王の一人、本多忠勝が居城し上総の国を治め房総の中心として繁栄し、今でも昔ながらの町並みを数多く残しています。現在、国の補助を受け、大多喜城（県立総南博物館）を中心に国の重要文化財である渡邊家住宅や豊乃鶴酒造、大屋旅館といった国の登録文化財も点在し、「房総の小江戸大多喜」を目指した町並み整備事業を平成12年度から実施しております。また、春には菜の花やレンゲの花、タケノコ狩り等が楽しめ、夏には養老川の清流で水遊びやキャンプ客で賑わい、秋は関東最後の紅葉と言われる養老溪谷の紅葉が楽しめるなど、四季折々の色彩があり、年間を通し150万人の観光客が訪れ観光の町としての趣が強くなってきました。

しかしながら、首都圏の近郊であるにも関わらず、人口は年々減少しており、現在の人口は11千人程度となっております。

#### 3. 派遣テーマ

### 「いすみ鉄道を活用した地域の活性化について」

いすみ鉄道は、旧国鉄の民営化に伴い赤字路線であった国鉄木原線が廃止になることに伴い、地域住民の貴重な交通手段として存続の活動が高まり、千葉県と夷隅郡市1市5町及び地元企業等の出資により、昭和63年に第三セクターいすみ鉄道として開業しましたが、マイカーの普及や沿線地域の人口減少及び少子化等の影響で年々利用者が減少し、厳しい経営状況が続いており、いすみ鉄道友の会会員・いすみ鉄道職員・町職員等のボランティア作業により、沿線の草刈や菜の花の植栽等、町では各種イベントの開催等利用者の増加及び、地域の活性化を試みておりますが、思うように効果が上がっておりません。

そこで、大多喜町の豊かな自然や観光資源といすみ鉄道を活用して、地域の活性化を図ることを目指しています。

#### 4. アドバイザーとの打合わせ

現在、町職員で形成しているプロジェクトチームに住民からの代表を加える計画を打診したところ、早めに人選をし、アドバイザーの来町までに議論を重ねて置くことが望ましいと指導を受けました。また、いすみ鉄道の詳しい状況、他の交通機関の情報提供を要望されました。

#### 5. アドバイザーに期待すること

現在、大多喜町に存在する観光資源は町全体に点在しているため、いすみ鉄道を中心とした交通機関をパイプ役とし、観光資源を結びつけることにより観光のルート化を図り、いすみ鉄道利用者の増加と地域の活性化を実現するためのアドバイスに加え、地域の住民が気付かない観光資源等の発掘にもアドバイスをいただきましたと思います。

（企画課 秋山 賢次）

### 千葉県／佐原市

#### 1. 派遣アドバイザー

＜試験派遣＞  
伊藤 雅春（大久手計画工房代表）

#### 2. 地域の様子

千葉県の北東部に位置し、水と緑あふれる美しい水郷の町で知られる佐原市は、東京都心から約70km、成田国際空港からは東関東自動車道を利用し15分の至近距離にあり、市域面積119.88km<sup>2</sup>、人口47,468人の都市です。

歴史的には、当市の繁栄の礎は利根川の舟運に端を発し、徳川幕府による利根川東遷で江戸への多様な物資集積、流通事業から多くの豪商や豪農が生まれ、醤油や酒の醸造等産業活動が隆盛しました。

こうした利根川舟運の物資輸送、人の往来とともに、当地域内で江戸の文人、学者と地元経済人との交流が生まれ、それらの交流活動と産業活動によりもたらされた町民の財力により、今に残る歴史的な町並みや佐原の山

車祭り、和楽器によるオーケストラと称せられる佐原囃子等「江戸まさり」といわれる佐原流の独自の伝統文化が形成されました。

現在、全国各地で都市化が進み、没個性化する中において、佐原流の「江戸まさり」な暮らし・文化を大切に残し、自然、歴史・風土、文化などの地域固有の資源を活かしたまちづくりの展開、交流人口の拡大を目指しています。

### 3. 派遣テーマ

#### 「水郷・与田浦地域振興策について」

当該地域は、千葉県北東部で茨城県との県境にあり、「水生植物園」や「十二橋めぐり」等全国的にも知られる観光資源を有し、稲作農業が盛んな地域ですが、ここ数年は、観光客の減少や農業従事者の高齢化等により、地域を取り巻く環境は厳しさを増しています。

そこで、豊かな自然と文化、田園風景が維持されている水郷・与田浦地域（北佐原・新島地区）における住みよい、活力ある「ちいき・まちづくり」を構想するため、住民自らが、地域資源を発掘し、活用する取り組みにより、同地域の地に合った地域振興戦略を作ることとし、今年度は地域住民へ初期段階の問題提起を行い、ワークショップにより、その取り組み方法の仕組み検討を行う予定です。

### 4. アドバイザーとの打合わせ

伊藤先生のご経験から、計画策定にあたっては当該地域のキーパーソンとなるべき適任者を探すこと、及び検討委員の半数以上を女性とし、かつ、その半数を公募により選任すべきなどのアドバイスをいただきました。

### 5. アドバイザーに期待すること

水郷・与田浦地域の振興策については、まだ具体的なイメージもなく、今後、地域住民とワークショップを重ねながら、共に考えていくこととなりますが、その過程で、住民参加によるワークショップの体制づくりや地域資源の新たな発掘、さらには具体的な振興策などについて、効果的なアドバイスをいただきたいと思います。

（企画課 浅野 仙一）

## 石川県／珠洲市

### 1. 派遣アドバイザー

河部 真弓（NPO結まーるプラス理事長）  
宮口 侗迪（早稲田大学教授）  
麦屋 弥生（フリープランナー）

### 2. 地域の様子

能登半島の最先端に位置し、人口約19,600人、高齢化率約36%の本市は、平成15年度に決定した電源立地計画の凍結を受け、第1次産業を基本とした地域産業の再生と観光産業による交流人口の増大を目指していく地域振興

策を策定いたしました。

中でも、市内の雇用機会創出につながるような地域産業の活性化は重要な位置づけとなっており、能登半島最先端珠洲市にある豊富な自然食材のブランド化と、この地域ならではの資源を組み合わせた観光交流拡大を図っていくことが大きな課題となっています。

### 3. 派遣テーマ

#### 「観光、食を中心とした地域振興策の

#### 具体的事業展開について」

このブランドづくりや観光交流への取り組みは全国的にもすでに多くの自治体で実践されており、とおりいっぺんの計画や事業化では激化している地域間の競争にはついていけないと考えています。

また、今回の派遣事業においては、ブランドづくりに対する一環した考え方の構築や取り組む姿勢を地域内の関連組織内に造り上げることこそが、最も重要なテーマであると考えています。そのためにも今回の派遣事業によって、市内主要組織内での地域ブランド化にむけた具体的な第1歩が踏み出せるよう取り組むこととしています。

### 4. アドバイザーとの打合わせ

以上を第1回のアドバイザーとの打合会にて説明をした結果、地元受入組織のメンバーは、どのテーマも同じであるが「自ら何とかしたい」「やり遂げたい」という意欲がある人がいなければ意味がない、という指摘を受けました。

いわゆる組織の一員であるメンバーでは危機感や使命感が薄く、本当の意味での目標や計画が出来ないし、また達成することも難しいとの指摘から、第1回目の派遣までに地域における起業者や意欲的な事業者を受入組織のメンバーに積極的に加えていくこととしました。

### 5. アドバイザーに期待すること

低迷する市内経済の中で、今回の派遣事業における本市のねらいは、主要産業関連組織（組合）が自立的な生産流通活動を積極的に展開し得る動機付けとあわせ、事業展開を進める上で必要な人材育成を行うこととしており、ブランド創出の実践ノウハウ等だけでなく、地元参加者への意欲・意識高揚につながるアドバイスを期待しています。

（企画振興課 金田 直之）

## 長野県／長野市

### 1. 派遣アドバイザー

#### ＜試験派遣＞

藤原 洋（シーズ総合政策研究所代表）

### 2. 地域の様子

長野市は長野県の北部に位置し、古くから国宝善光寺の門前町として、北国街道の宿場町として栄えてきまし

た。また、平成10年の第18回オリンピック冬季競技大会、第7回パラリンピック冬季競技大会の開催を機に、国内外から注目を集め、多くの人が訪れるきっかけを生みました。平成11年には、中核市に移行し、さらに、平成17年1月には豊野町、戸隠村、鬼無里村、大岡村の1町3村と合併し、人口38万3千人、面積738.51km<sup>2</sup>の新長野市が誕生しています。

長野市は、年間観光客数が800万人を超えており、更に7年に1度行われる善光寺前立本尊御開帳の年には年間1,300万人の観光客を迎えています。しかしながら、新幹線・高速道路等の高速交通網の発達により、東京方面からの観光客が十分日帰りできる移動時間になったこと、長野市が観光の最終目的地とはなっておらず、観光客が近隣市町村に宿泊していること等から、観光客の「日帰り化・通過点化」という地域経済の活性化にとって好ましくない状況が続いています。

### 3. 派遣テーマ

「観光振興のための名物メニューの

創出やPR方法について」

長野市では、平成19年に善光寺本堂建立300年祭、平成21年には善光寺前立本尊御開帳を控えており、全国から大勢の観光客が訪れようとしています。これを機会に観光地として力不足とされてきた飲食面について、郷土料理や地元の食材などを参考に検討し、新たな食文化（名物メニュー）を創出することで、観光客の誘致や滞留性の確保を図り、地域の活性化を図って行きたいと考えています。

### 4. アドバイザーとの打合わせ

名物メニューの創出に向けて、まず、観光客が何を望んでいるかという需要の調査と、長野市でどのようなものが生産され、それをどのように食べさせたいかという供給方法の検討を行っていくことを話し合いました。第1回目の派遣では善光寺及びその周辺の状況を視察し、現状と課題について話し合っていたることになりました。

### 5. アドバイザーに期待すること

長野市を観光地として飲食面から魅力的にしていきたいというテーマついて、豊富な専門知識から、一定の方向性を見出せるような道筋づくりを行えるようにアドバイスしていただきたいと思います。

（商工振興課 紅粉 康弘）

## 長野県／上田市

### 1. 派遣アドバイザー

中島 衆雄（足利商工会議所専務理事）  
藤原 洋（シース総合政策研究所代表）  
溝尾 良隆（立教大学観光学部教授）

### 2. 地域の様子

上田地域は、長野県東部に位置し、古くは信濃国分寺が置かれ、また、信州の鎌倉と呼ばれる塩田平では、国宝である八角三重塔を始め、古寺、仏閣数多く残っている。

中心市街地は、戦国時代に全国にその名を馳せた真田幸村の居城上田城を中心として城下町として形成され、築城当時の町並みを現在に残している。近代になると、『蚕都上田』として養蚕業が隆盛を極め、賑わいを呈した。

長野冬季オリンピックの開催を契機に整備された高速交通網により、東京から新幹線「あさま」で最短73分、上信越自動車道で150分と首都圏へのアクセスが便利になった。

平成9年には、上田観光コンベンション協会（会員110団体＝平成17年度）を設立し、上田市と一体となった観光宣伝事業、コンベンション事業、フィルムコミッション事業の3本の事業展開を行っている。このうち、フィルムコミッション事業では、年間100本のロケ誘致実績があり、『映画のまち上田』として全国発信している。

### 3. 派遣テーマ

「観光振興のための観光戦略と

その実行に向けた組織構築について」

個々の資源のプレゼンテーション力の格差と併せ、全体としての観光戦略不足とその実行を行う組織のコンセンサス形成がなされていないのが現状である。観光関連産業の振興が、地域経済へ及ぼす波及効果は図りしれない。『観光地づくりは地域づくり』という認識のもと、観光振興による都市間競争に勝ち抜くために必要な地域に対する住民の誇り（タウンプライド）、ホスピタリティ（おもてなし心）及び地域のアイデンティティの醸成が急務となっており、こうした施策を具体的に推進するための組織づくりが強く望まれている。

### 4. アドバイザーとの打合わせ

地域の観光資源は豊富にあるが、現状は十分生かし切れていないのが現状だと思う。

活性化に向けた仕組みづくりは、様々な選択肢があるので、ぜひアドバイスさせて頂く。

### 5. アドバイザーに期待すること

豊富な経験を有するアドバイザーの御意見を伺う中で、こうした施設の活性化施策を始め、他の地域に負けない豊富な地域資源を積極的に活かした強い観光戦略とその実行に向けた組織構築に向けて御意見を頂きたいと考えている。

（観光課 東井 光司）

## 長野県／阿南町

### 1. 派遣アドバイザー

井出 建（環境計画機構代表）  
浦野 秀一（あしコミュニティ研究所代表）



## 2. 地域の様子

阿南町は、本州の中央に位置する南アルプスと中央アルプスに挟まれ、太平洋に注ぐ天龍川の右岸にあり、長野県の南端に位置しています。東西15.5km、南北18.2km、総面積123.35km<sup>2</sup>で、84%を森林が占め、農用地は7%に過ぎません。人口は約5,900人で高齢化率は36%を超えています。

昭和の大合併以降、著しい人口減少が続き、その対応策として企業誘致、社会福祉施設誘致による雇用の場の確保及び観光施設整備等を進めてきましたが、人口減少や少子・高齢化は今なお進んでおり、厳しい状況にあります。そこで、市町村合併問題について広域連合や近隣町村との検討を重ねてきましたが、住民懇談会での意見や議会の協議結果を総合的に判断し「自立」を選択するに至っています。

## 3. 派遣テーマ

### 「協働のまちづくり実践と総合計画の策定について」

第4次総合計画策定以降、当時の予想以上に時代が大きく変化してきたことや、景気の低迷とも相俟って財政的に厳しくなっており、ますます多様化・高度化する住民ニーズに対応することが困難になってきています。そのため、これら社会的、経済的情勢を踏まえる中で総合計画の見直しが必要になってきています。

自立したまちづくりを進めていくには、行政と住民双方の意識改革が必要であり、行政と住民が対等な立場で責任を共有しながら目標の達成に向けて取り組む「協働のまちづくり」により住民参加を昨年度から進め、町民と行政の役割を明確にしながら地域の個性を生かした活力ある町づくりをめざしております。

しかしながら、行政主導によるまちづくりを永年行ってきた経過から、こうしたまちづくりは経験したことがなく、そのため「町民の行政依存意識」脱却へのアドバイスとともに、職員の意識改革についてのアドバイスをお願いし、新たなまちづくりのきっかけとしたいと思います。

## 4. アドバイザーとの打合わせ

「協働のまちづくり」を進めていくうえで、町づくり委員会委員以外の地域おこしリーダーとも多く懇談し、特に人材を含めた地域資源の発掘・確認を行うとともに、町内の地域おこしグループ間の情報交換を活発化、それによるお互いに刺激仕合い、より一層の町づくりに対する雰囲気深めるようアドバイスをいただきました。

## 5. アドバイザーに期待すること

課題解決の切り口へのアドバイスもさることながら具体化、実行までを見据えた取組みなどもアドバイスをいただきたいと思います。

（総務課 佐々木 弘）

## 長野県／美麻村

## 1. 派遣アドバイザー

片山 健也（北海道ニセコ町教育委員会町民学習課課長）  
鈴木 輝隆（江戸川大学教授）

## 2. 地域の様子

美麻村は長野県の北西部・北安曇郡の中央部に位置し、南北15.2km、東西7.9km、総面積66.21km<sup>2</sup>で、西は大町市、北は白馬村、南は八坂村に隣接し雄大な北アルプスを望む絶好の景観、多様な自然と冷涼な空気に恵まれた高原の里です。

明治8年の誕生以来、その枠組みが崩れることなく現在に至っていますが、昭和35年以降は人口減少が進み、平成17年4月の人口は1,229人となっています。人口の流出に伴い高齢化が進むなか、村では国際交流事業、山村留学、滞在型市民農園など、都市と農村の交流に力を注いできました。これらの取り組みは、転入者（Iターン等）の増加という形で現れてきました。現在では人口、世帯とも全体の2割を超えようとしています。

一方、地方交付税の減額に伴う財政問題、高齢化の進展、行政サービスの高度化等に対応する必要から、平成15年3月より隣接する大町市、八坂村との合併協議を重ね、平成17年2月に3市村議会の議決を経て合併することとなりました。現在は平成18年1月1日から大町市へ移行する準備が進められています。

## 3. 派遣テーマ

### 「市町村合併後の地域自治組織の設立について」

法律に基づいて合併後の地域の意見を行政に反映させる組織として、「地域審議会」や「地域自治区」などがありますが、村の状況を考えると合併後も長期的に地域の活力を維持するためには、合併時の協定や制度等に加え、地域住民による自治活動の活性化が必要になると考えています。

合併に際して、旧村を単位として地域振興とコミュニティ機能強化を目的とした「地域自治組織（法律に基づかない）」が設置されることとなったことから、合併後の地域づくりを検討するにあたり、「地域自治組織」の活動を「担い手」となる地域の方々に理解いただき、行動いただくための環境整備をテーマとしました。

## 4. アドバイザーに期待すること

アドバイザーからは、限られた時間と回数を有効に活用するため、内容を精査してポイントを絞るようアドバイスいただき、第1回目の派遣日程を調整しました。

## 5. アドバイザーに期待すること

当たり前のことですが、住民自治は行政が主導してできるものではありません。「住民自治の実現のために頑張らしましょう！」と声を上げて、「何だか難しくてわからない」と言うのが正直なところではないかと思います。ま

た、活動が始まって一定の成果が得られるまでは長い時間が必要となるでしょう。

主役である住民自らが「無理なく」、「楽しく」、「わかり易く」、「参加したくなる」活動につながるアドバイスをいただきたいと考えています。

(総務課 大塚 裕明)

## 長野県／豊丘村

### 1. 派遣アドバイザー

伊藤 光造 (地域まちづくり研究所代表)  
鱸 雅守 (三州足助公社兼足助観光協会事務局長)  
本田 節 (ひまわり亭代表)

### 2. 地域の様子

豊丘村は南信州飯田市の北東に位置し、諏訪湖から流れ出た天竜川の東にあります。前に中央アルプス、後ろに南アルプスとまさに山紫水明、自然そのものの当村は、面積76.85km<sup>2</sup>で山林がほぼ80%を占め、天竜川に注ぐ村の主要河川は丘陵地を切り込み、すばらしい渓谷美と日本一の河岸段丘をつくりだしています。肥沃な河岸段丘では、果樹を主体にした農業が展開され、りんごを中心に、梨、ぶどう、柿、梅等が栽培されています。しかし、農業従事者の高齢化や後継者不足、農産物の価格の低迷などにより、離農や遊休農地の増加が進む厳しい現状が続いていております。そんな中で、各種の果物狩り、学生の農家ホームステイやジャム作りなどの体験農業、特産の松茸を使った観光等、都会からの誘客を意識した観光農業への転換を図りつつ、地域農業の活性化に向け取り組んでおります。

### 3. 派遣テーマ

「村の特徴を出した農産加工品の

開発販路拡大及び農産物直売所の開設」

地域農業の活性化と地場産業の振興を図るため、これからは、農産物を生産者の顔が見える交流型の販売、又は特徴のある加工品として販売していくことが不可欠であると認識しております。

現在、平成12年に発足した豊丘村農産物加工組合が村所有の加工所において農産物の加工を行い、JA経営の店舗、地場産業センター等での販売、村経営の交流支援センターが行う直売及びふるさと宅配便の商品として販売していますが、農家の婦人が農作業の傍らで加工に従事する実態の中で、営業を含めた販売面に課題がありますし、商品メニューも少なく、消費者ニーズにあった新商品の開発も望まれております。また、加工品を安定的に販売でき、直接お客様の評価をいただき、次の商品開発等にフィードバックできる直売施設が無いのが現状です。

### 4. アドバイザーとの打合わせ

地域を知り、地域へ溶け込むことと、新しい加工品の開発に向け、村の食文化、我が家の自慢料理に触れるこ

とのできる機会を準備する。また、派遣テーマが2つであることでの整合点の整理についてご指示をいただきました。

### 5. アドバイザーに期待すること

女性たちの片手間的な加工組合運営の現在、アドバイスをいただくことで、新たな加工品の開発や販路拡大の進展、直売所の開設が図られることで、女性組合員の元気が出て、そのことが家庭、地域と波及し、地域の活性化につながり、村の農業全体に活力が生まれることを期待しています。

(交流センターだいち 遠山 勉)

## 京都府／京丹後市

### 1. 派遣アドバイザー

＜試験派遣＞

前田 博 (京都造形芸術大学芸術学部教授)

### 2. 地域の様子

旧久美浜町は京都府の北西端に位置し、西は兵庫県境、北は日本海に面し、北側を除いて周囲は山に囲まれている。域内の主要河川、佐濃谷川・川上谷川などが南北に流れ、流域に平野が広がり耕地を形成、多数の集落が点在している。旧6町では最も広く1郡1町が続き、経済生活圏は兵庫・但馬との関係が強い。産業は主に農耕で農業立町あったが、農村の衰退とともに若者の流出で、早くから過疎指定を受けるなど厳しい環境に呑み込まれた。合併で周辺域の住民に危機意識が生まれ地域では旧村単位で振興協議会とは別に自発的に「活性化協議会」が設立され地域づくりに取り組む動きが出現している。

### 3. 派遣テーマ

「合併後の旧町単位での地域活性化策」

当地域は旧丹後町とともに条件不利で、全域が農山村でもあるが、以前より、農業と観光との連携に取り組んできている。農地面積、生産額、従事者とも市内では群を抜いており、最も農業が盛んであったが、米生産調整に加え、高齢化、後継者難で耕作は部分的に国営開発農地の造成で開けたかに思われたが、減退傾向にある。丘陵地や砂丘地など地域特性に応じた果樹・砂丘作物などの特産物に付加価値を加え、活路を切り拓きたいが、観光に過大な期待は禁物で、首都圏発信も競争が激しく先行不透明である。農産物直売場を設置し、消費者との直接販売、地産地消等を試みたものの、効果が出現しない。販路の新規開拓や観光産業との連携の一層の工夫が必要であるが手法に苦慮している。果樹の歴史は梨に始まりメロン・桃・ブドウも手がけ、野菜ではスイカ・京野菜・豆類に取り組むも販売の確保が難しい。また茶の新植に着手したものの収穫には至らない。このような課題を克服しないと農村集落の維持が困難になることを大変懸念している。



#### 4. アドバイザーとの打合わせ

試験派遣であることから、助言を得たい事項等を振興協議会で事前に出し合い、集約したものを前もって提示することを確認している。大枠は周辺の旧町域の振興だが、旧久美浜町域の農村農業の振興を観光の側面からアプローチできないものかと考えている。

#### 5. アドバイザーに期待すること

当振興協議会は全域の活性化策を提言する機関ですが農村であり、農業振興と観光の連携を軸に特に外部・首都圏からの視点で助言を期待します。

(企画推進課 水口 孝志)

### 島根県／旭町

#### 1. 派遣アドバイザー

川村 雅人 (三菱総合研究所地域経営研究センターチーフプランナー)  
徳野 貞雄 (熊本大学文学部教授)

#### 2. 地域の様子

本町は島根県の中央部から南西部寄り南側は広島県に接し、総面積は128.57km<sup>2</sup>で、うち約85%が山林である。人口は、昭和35年の7,051人をピークに年々減少し、現在では、3,132人となり過疎化の進行に歯止めがかからず、また、14歳以下の年少化率は約11%、高齢化率は約41%と典型的な少子・高齢化が進んでいる過疎の農山村である。

その様な厳しい状況ではあるが、新しい農業への若い世代の参入、滞在型観光施設や農山村の資源を活かした交流、農産加工や朝市などの農村の財産である高齢者が活躍できる場の確保など、小さい歩みではあるものの「元気な田舎」を目指した取り組みも動き出している農山村でもある。

今回の対象地域は、本年10月に市町村合併すると中心地から最も距離の離れた地域となる。自立した組織づくりに積極的な地域ではあるものの、高齢化率は約50%と最も高い。今後の地域を考えると、過疎化、高齢化の進行により集落機能が弱体しつつあるとともに、後継者不足によって、基幹産業である農業面においても耕作放棄地の急増など、農業・農村の活力低下が進行している状況にある。加えて、少子化にともない多くの集落では、純真無垢な笑顔が見られなくなり、未来を託す活力が失われつつある。

#### 3. 派遣テーマ

##### 「地域特産品の開発、販売促進と

都市交流に向けたより有効的な取り組みについて」

木工工芸品や農産加工品の販売の行き詰まりや加工に対する地域全体の盛り上がりが少なく、趣味から地域産業へと発展できていない。

また、市木地区の持つ多くの地域資源が都市との交流や観光振興に充分には活かされていない。

#### 4. アドバイザーとの打合わせ

7月上旬の第1回目の派遣時に、実行委員会との意見交換、打ち合わせや講演会を実施し、より有効な派遣制度となるよう、一緒に計画づくりに取り組むという方針で進めることになりました。

#### 5. アドバイザーに期待すること

地域の人が地域の良さを再発見するとともに、現実を知りこれからの取り組みを通じて、さらに元気な地域となっていくための、ヒントやきっかけとなるアドバイスを期待します。

(総務課 田村 邦麿)

### 広島県／安芸太田町

#### 1. 派遣アドバイザー

大川 信行 (東日本国際大学教授)  
坂元 英俊 (阿蘇地域振興デザインセンター事務局長)  
南 賢二 (ラック計画研究所代表)

#### 2. 地域の様子

本町は、広島県の北西部に位置し、中国自動車道が東西に貫き、広島市中心部から町の中心部までは車で約1時間、九州方面、関西方面との往来も比較的容易です。

また、一般国道186号、191号により島根県の浜田市・益田市から約1時間という地点にあり、山陽・山陰間における交通の結節点です。

総面積は342.25km<sup>2</sup>で、うち森林面積が302.33km<sup>2</sup>と町土の88.3%を占めており、国の特別名勝三段峡をはじめ、スキーや登山が楽しめる県内最高峰恐羅漢山や深入山などは、西中国山地国定公園に指定されています。このほか、黒部ダムについて日本で2番目の高さを誇るアーチ式の温井ダム、日本棚田百選に選ばれた井仁の棚田、龍頭峡など自然環境に恵まれた観光スポットを多数有する観光・レクリエーションエリアとして都市部との交流が多い地域です。

平成16年10月に旧加計町、旧筒賀村、旧戸河内町の2町1村が合併して本町が誕生し、人口8,662人(16年3月末現在)と小さな町ですが、西中国山地に抱かれた暮らし・交流・元気のまちづくりを目指して、豊かな自然と歴史文化を大切に、多様な交流を育むまちづくりを進めることとしています。

#### 3. 派遣テーマ

##### 「地域資源を生かした3セク経営のあり方について」

豊かな自然環境に恵まれた地域特性を生かして、合併前の旧3町村は宿泊、温泉施設等をそれぞれ有し、第三セクター等により運営してきましたが、いずれの施設も経営不振で、経営改善が求められています。

第1回の派遣では、町が出資する法人について、交通アクセス、周辺地域資源等の施設状況と経営状況を把握してもらい、弱点と伸ばすべき点を明確にし、第2回、第3

回の派遣に向けて、経営不振の原因究明と経営改善策のアドバイスをいただき、町の管理委託の見直しや、経営の統合も含めた抜本的な見直しに向けた専門的な立場での具体的な提案をお願いします。

#### 4. アドバイザーとの打合わせ

地域振興を図ることを目的とした宿泊施設及びレクリエーション施設を3セク等により経営している現状を説明し、経営不振の3セクの経営改善点を指導していただくため、第1回目の派遣で町長、各施設支配人との協議を行い、周辺地域の観光資源を視察することとしました。

#### 5. アドバイザーに期待すること

当地域は豊富な観光資源と地域資源に恵まれた地域であることを再認識し、これらの資源の有効活用を図るための具体策を見出すことにより、観光振興を図るとともに、合併により引きついだ3つの3セク等の経営改善及び組織のあり方について、アドバイザーの豊富な専門知識に基づいた、具体的、効果的な提言やご意見をいただきたいと考えています。

(産業観光課 梅田 幹二)

### 長崎県／島原市

#### 1. 派遣アドバイザー

内田 文雄 (山口大学工学部感性デザイン工学科教授)

奥村 玄 (農村・都市計画研究所取締役)

田邊 大輔 (地域生活総研バリエオ代表)

#### 2. 地域の様子

島原市は、長崎県の東南部に位置し、福岡県や熊本県からの海の玄関口として、また、歴史的には七万石の城下町として、島原半島の政治・経済・文化の中核的役割を果たしながら今日まで発展してきた人口約4万人、面積約59km<sup>2</sup>の城下町です。

まちづくりの取り組みとしましては、昭和56年度に水緑都市モデル地区(国土庁)の指定、昭和59年度には地域住宅計画(HOPE計画、建設省)のモデル都市に選定、また、昭和60年度には快適環境整備都市(アメニティ・タウン整備計画、環境庁)に選定されるなど、水緑都市構想を基本方針としながら取り組んでまいりました。加えて、「火山と共に生きる湧水と歴史の国民公園都市」(市勢振興計画・平成7年改訂)を将来像として取り組んでいるところです。

具体的には、行政としましては、まちなみ景観の向上と市民の意識高揚を目的に昭和62年度より「まち並み景観賞」を顕彰制度として創設し、平成5年度より街なみ環境整備事業(国土交通省・住宅局)に取り組み、道路の美装化、家屋の修景助成を、さらには平成15年度より看板の設置・改修費用の助成、昨年度より景観資産登録建築物の保全費用への助成を行っています。住民の取り組みとしましては、「下の丁町内会」による武家屋敷街地区

の長年の保全活動が挙げられますが、「まちづくり月間」功労賞、都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」を受賞するなど、その功績は輝かしいものです。

#### 3. 派遣テーマ

##### 「条例制定に向けた島原の景観形成について」

国民公園都市、観光保養都市を標榜する島原市におきましては、良好な景観は欠かすことのできない大切な資源であります。景観法の施行、また、地域住民の要望等もあり、より良好な景観の形成保全を図るべく景観条例の制定に向け、景観形成について研究してまいりたいと考えております。

#### 4. アドバイザーとの打合わせ

島原市の景観形成等の取り組み、課題、派遣テーマについての説明を行いました。派遣事前資料として、HOPE計画、中心市街地整備計画、登録文化財の状況などの提出要望を受けました。

#### 5. アドバイザーに期待すること

景観条例の制定に向けた景観形成について研究して行くわけですが、現在まで行ってきた景観形成保全の各種施策あるいは住民の取り組みについて、外部の目で評価をしていただき、島原にふさわしい景観のあり方についてアドバイスいただければと考えております。

(都市整備課 高見 俊治)

### 長崎県／県央地域広域市町村圏組合

#### 1. 派遣アドバイザー

井手 修身 (リクルート九州観光振興プロデューサー)

島村美由紀 (ラスアソシエイツ代表)

野口 秀行 (日本政策投資銀行地域政策研究センター主任研究員)

#### 2. 地域の様子

本圏域は、長崎県のほぼ中央部に位置し、三方を有明海、大村湾、橘湾の三つの海に囲まれ、雲仙岳や多良岳などの山間部と、諫早湾周辺の平野部などから構成される、比較的自然環境に恵まれた地域です。

昭和45年に広域行政圏の設定を受け、現在2市5町で構成される本圏域は、この間、ふるさと市町村圏の指定を受けたのを契機に基金を設置し、その後、圏域全体が地方拠点都市地域の指定を受け、広域活動事業並びに生活基盤、産業基盤の整備などを推進し、豊かで安定した地域づくりに取り組んできました。

また、国営諫早湾干拓の完成が間近に迫り、優良農地の造成はもとより、水害や高潮被害に対する防災機能の向上により、圏域住民の暮らしの安全性が増しているところです。

なお、本圏域内では10月11日の「雲仙市」の誕生により、市町村合併は一定の区切りを迎え、その後、地方拠点都市地域の「基本計画」策定の作業に入りますが、計

画では、ソフト事業の展開による地域の活性化を重点項目として位置付けることとしています。

### 3. 派遣テーマ

#### 「観光・物産・レジャーの振興策について」

昨年末の政府・与党申合せにより、九州新幹線長崎ルートの条件付着工が決定し、10年後の開業時期を視野に入れ、「開業＝地域の活性化」となるよう現時点から様々な方策を検討していきます。その中の観光面においては、新幹線は交流人口を拡大させる重要なツールではありますが、同時に地域間競争も発生させ、現状のままでは長崎県央地域はただの通過点になりかねないと危惧しているところ です。

一方、圏域内には国立公園雲仙などの観光地があるものの、近年観光客数や観光消費額はピーク時の7割程度まで落ち込み、この対策が喫緊の課題となっているもの事実です。

### 4. アドバイザーとの打合わせ

第1回派遣は主に現地視察に当て、圏域が広範囲に及ぶため、2泊3日の行程で訪問いただくこととなりました。要望として、地域のニーズ（課題認識、現状認識）の整理、視察ポイントの整理を行うこと、また、受入側には第二世代の実務担当者を多く入れたほうが望ましいとの意見がありました。

### 5. アドバイザーに期待すること

観光の分野については、観光シーズンにだけ観光客が偏る傾向があるところ、観光地でありながら滞在時間が短いところ、観光は全く未開発なところなど、広域行政圏としていろんな性格の自治体があり、今後の新たな観光資源の開発はもとより、広域的連携を含めた観光ルートの開発について有益なアドバイスを期待したいと思います。

（企画課 場先 隆徳）

## 熊本県／人吉市

### 1. 派遣アドバイザー

荻原 礼子（結まちづくり計画室主宰）  
寺川 重俊（寺川ムラまち研究所代表）  
林 のり子（【食】研究工房主宰）

### 2. 地域の様子

熊本県人吉市は、熊本県の南部、人吉盆地の最南端に位置し、南は鹿児島、宮崎両県に接しており、市域の面積は約210km<sup>2</sup>、市の中央部を日本三急流のひとつ球磨川が東西に貫流しています。

（地域づくりの現状）

本市においては、従来から地域づくり団体による地域づくりが主流ですが、活動内容のマンネリ化、メンバーの固定化、団体間の連携の希薄化など様々な課題を抱え

ております。特にメンバーの固定化は、新しい人材の受入れを拒んでいるかのごとく受け取られ、地域のために活動したい、役に立ちたいと思う若者たちは活動の場が見出せないような状況にあります。

また、若い世代のメンバー加入があっても、従来からの活動の中だけでは彼らの地域づくりに対する自主性を育む機会は乏しく、次世代の人材育成が十分にできていない現状です。

### 3. 派遣テーマ

#### 「こどもの育成、地元学からみた

##### 「食文化」という視点からのふるさと再発見

市民と行政がともに力を出し合っていくために、その担い手となる人材を養成し、行政と市民、人材間のネットを作ることを目的に「地域づくり人材養成塾」を設立して、「地元学」の考え方や手法をベースに、まず、ふるさとへの誇りと愛情を育むために「地元を見る目」を養います。

地域の生活文化の総体である「食文化」、ふるさとへの誇りと愛情を世代を超えてつなげていくための「子どもの育成」を具体的なテーマとし、地域に目を向け、地域資源を活用する練習により、今後の地域づくり活動のきっかけづくりを行います。

### 4. アドバイザーとの打合わせ

今回の活動主体となる組織「地域づくり人材養成塾」の受講生の中で、「こどもの育成」をテーマとしているのに、こどもや教職員が入っていない点について指摘がありました。また、受講生の早急な取りまとめについての要望や遊びの伝承ということではテーマが狭いので遊びも含めた観光資源の活用によるまちおこしを考えてみてはどうかという提案もありました。

### 5. アドバイザーに期待すること

地域に対し外部からの刺激を与えていただくことで、受講生それぞれが地域の魅力を再発見し、今後の活動のきっかけとなるようアドバイスをいただきたいと思います。

（地域生活課 植木 安博）

## 熊本県／三加和町

### 1. 派遣アドバイザー

#### <試験派遣>

小田切徳美（東京大学大学院助教授）

### 2. 地域の様子

三加和町は、熊本県の北西部、福岡県との県境に位置し、菊池川支流の川沿いに集落と耕地が展開する面積約60km<sup>2</sup>の農村です。30分移動圏内に5つの中小都市があり、熊本市・福岡市から高速道路を利用して60分と、自動車利用による都市とのアクセス条件に恵まれた地域です。

人口は約5,600余人で高齢化率30%を越えています。昭



和30年の合併時には1万人を越えていた人口は、約半数までに減少してしまいました。今では過疎化に加えて少子高齢化が益々進行する厳しい状況にあります。

また、市町村合併が進められる中、合併問題と過疎、少子高齢化に対応した地域のあり方を検討した結果、集落連携によるコミュニティの再編と将来構想づくり、住民組織の設置により住民自らが地域づくりを展開する(＝里づくり運動)ことを進めています。

その結果、町域すべてに8つの新たなコミュニティ組織とそれぞれの地域将来計画が策定されました。

### 3. 派遣テーマ

#### 「里づくり運動を継続するための支援と役割」

本町の里づくり運動は、地方分権時代の地域運営に欠かせない「自律と自立」「協働」を具現化する運動であると考えています。

平成16年度末に器(組織と計画)は出来ました。しかし、中身(活動・支援・役割)は今後の課題です。

そこで、合併後も里づくり運動を継続して進めるための「行政の仕掛け、支援のあり方」「地域や住民の役割」について検討します。

### 4. アドバイザーとの打合わせ

基本的な2つの課題に助言を頂くことになりました。①合併予定の相手自治体への働きかけ ②行政の役割と住民の役割について、話し合うことにしました。

### 5. アドバイザーに期待すること

類似した全国の地域を数多く踏査・研究されていることから、我が町の里づくり運動の良き助言者になっていただきたいと考えています。

(企画観光課 木 洋一郎)

## 大分県／臼杵市

### 1. 派遣アドバイザー

井原 満明 (地域計画研究所代表)  
政所 利子 (玄代表)  
森 松平 (杉の子代表)

### 2. 地域の様子

大分県の東南部に位置し、豊予海峡方面へ楕円状に細長く伸びた総面積291.02km<sup>2</sup>の地域です。東は豊後水道に面した臼杵湾に臨み、北西部は大分市・豊後大野市に接し、南西部は鎮南山・姫岳・冠岳・石峠山など比較的高い山稜が津久見市・佐伯市と境を接しています。

地域の幹線道路である国道502号が臼杵市街から野津地域・豊後大野市へ横断し、国道10号が地域の西端を南北に縦断しています。

河川は、野津川が南西部を東西に流れ、臼杵川・末広川・熊崎川が臼杵湾に注ぎ、いずれもこれらの河川沿いに水田がひらけています。畑地は野津地域の北側を中心に広がっています。

平成17年1月1日に1市1町(臼杵市、野津町)が対等合併して誕生した人口45,000人のまちです。旧臼杵市の基幹産業である醸造業、造船業、及び漁業と、旧野津町の農業とが一つになり、バランスのとれた新しいまちづくりが始まっています。

### 3. 派遣テーマ

#### 「合併にともない、同一市町村のものとなった

#### 地域資源(農産品等)を活かす手法について」

合併に伴い周辺地域となる旧野津町地域では、地域振興につながる施策を求める気運が高まっており、同地域の農業発展、雇用創出、賑わいの場創出の為の「道の駅的施設」の整備検討が課題となっています。

また、同地域にあり都市との交流を深め、農家所得の拡大と地域の活性化を図る目的で8年前に建設し、第3セクターに管理、運営を委託しているレストラン、宿泊、入浴施設を備えたりフレッシュビレッジ施設「おへまハウス」についても、来場者の減少により営業収支が整わなくなって来ており、経営戦略の見直しが必要となっています。

### 4. アドバイザーとの打合わせ

第1回目派遣の際、旧野津町地域を中心に現地視察を行い、地域資源の確認と原状把握をしていただくこととしました。

アドバイザーより、出来るだけ多くの住民と話し合いを持ちたいとの要望があった為、夕方視察先の生産者団体、施設関係者を含めた懇談会を持ち、意見交換をしたいと考えています。

### 5. アドバイザーに期待すること

「道の駅的施設」について、大都市のアンテナショップなど、地域資源の多様な活用方法も視野に入れながら、「おへまハウス」の経営戦略見直しを含め、立地条件など建設の是非についてもアドバイスをいただきたいと思います。

(農林振興課 長野 政元)

## 編集・発行

〒100-0011 東京都千代田区幸町2-1-1 飯野ビル717  
財団法人 日本地域開発センター  
TEL. 03 (3501) 6856 FAX. 03 (3501) 6855

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3  
国土交通省都市・地域整備局地方整備課  
TEL. 03 (5253) 8404 FAX. 03 (5253) 1588